

人間学部 基本教育科目カリキュラムマップ

ディプロマポリシー (卒業認定・学位授与の方針)	石巻専修大学では、各学部学科所定の単位を修得し、以下の能力を身につけた者に学士の学位を授与します。 1 知識・理解 (1)幅広く豊かな教養を身につけている。 (2)学んだ専門分野の基本的な知識を身につけている。 (3)学問の体系性や方法論を理解している。 2 技能・表現 (4)情報を収集し、自分の考えをさまざまな方法で的確に伝えることができる。 3 思考・判断 (5)課題に対して 問題点を抽出し、学んだ専門分野の手法を用いて考察し判断できる。 4 関心・意欲 (6)学んだ知識・技術をもって地域社会や職場の諸課題に積極的に取り組むことができる。 5 態度・志向性 (7)生涯にわたって学ぶことができる。 (8)他者の意見を理解し、社会の中で柔軟に協調した対応ができる。 (9)自らを律し、自発的主体的に行動できる。 6 健康・体力 (10)生涯にわたる健康づくりの大切さを理解している。
-----------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

										◎=DP達成のために重要な科目、○=DP達成のために望ましい科目、△=DP達成のために関連する科目									
										知識・理解		技能・表現	思考・判断	関心・意欲	態度・志向性			健康・体力	
科目区分(大)	科目区分(中)	科目区分(小)	科目名	担当(表には入らない)	配当年次	単位数	必修選択	到達目標	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	
基本教育科目	スキル養成	情報と分析力	情報活用法Ⅰ	人間学部 教授 惠原 貴志	1前	2	◎	電子メール、Web検索、ワープロソフト、プレゼンテーションソフト等を活用できる能力、および情報モラルを身につけることである。				◎							
基本教育科目	スキル養成	情報と分析力	情報活用法Ⅱ	経営学部 教授 佐々 木 万亀夫	1後	2	◎	表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、Webデータ等を活用できる。				◎							
基本教育科目	スキル養成	情報と分析力	情報社会論	理工学部 教授 亀山 充隆 / 准教授 佐々 木 慶 文 / 助	1後	2	△	情報が社会にどのような影響を与えているかを具体的に学習し、いかにすればこの恩恵に供することができるか、いかにして負の側面を回避するかについて体得することが到達目標である。このために、情報通信技術の応用、情報リテラシー、情報メディア、情報セキュリティと倫理などについて理解を深める。				◎							
基本教育科目	スキル養成	情報と分析力	基礎統計学	経営学部 准教授 関 口 駿輔	1前	2	△	統計学の基礎である確率の考え方を理解し、活用することができる。				◎							
基本教育科目	スキル養成	情報と分析力	基礎数学	人間学部 准教授 阿 部 正典	1前	2	△	高校の数学で習う微積分法を中心に、数や式の計算法やグラフの使い方を、たくさんの課題に取り組みながら体験的に習得する。				◎							
基本教育科目	スキル養成	表現力	日本語技法A	人間学部 兼任講師 鈴木 洋子	1前	2	◎	・テキスト(含練習問題)の活用を通して、日本語のきまりや基本的な知識を理解することができる。 ・適切な表現でレポートや論文を書いたり、日常生活において、相手や場に応じた適切な日本語を使ったりすることができる。				◎							
基本教育科目	スキル養成	表現力	日本語技法B	人間学部 兼任講師 安齋 雅裕	1後	2	△	語彙力の養成は、「日本語技法A」の発展として、意見・論説・書簡文等の文章作成や修正演習を通じて、より質の高いものにする事である。また、諸文書作成のスキルについては、様々な様式を知り、実作演習をとおして、場に応じた的確な選択と作成ができるようにすることである。				◎							

必修選択においては必修◎、必修修(◎)、選択必修○、選択△								◎=DP達成のために重要な科目、○=DP達成のために望ましい科目、△=DP達成のために関連する科目											
科目区分(大)	科目区分(中)	科目区分(小)	科目名	担当(表には入らない)	配当年次	単位数	必修選択	到達目標	知識・理解			技能・表現	思考・判断	関心・意欲	態度・志向性			健康・体力	
									(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	
基本教育科目	スキル養成	表現力	英語A	経営学部 兼任講師 上羽 広明	1前	2	◎	1. 基本的な語彙力と文法知識を養う。2. 英文を読むための基礎を身につける。				◎							
基本教育科目	スキル養成	表現力	英語B	経営学部 兼任講師 上羽 広明	1後	2	◎	1. 英文を理解するのに必要な語彙力と文法知識を養う。2. 英文の段落構造も捉えた上で読む能力を身につける。				◎							
基本教育科目	スキル養成	表現力	英語C	人間学部 教授 長谷川 香子	2前	2	HC:◎ HE:○	英文法の知識を基に、日英両語の相違点や発想の違い、及び英語独自の表現法を習得し、日本語に沿った正しい英作文とクリエイティブな英作文ができるようになることを目標とする。				◎							
基本教育科目	スキル養成	表現力	英語D	人間学部 助教 黒志帆美	2後	2	HC:◎ HE:○	映画『ズートピア』の物語文を通じた英語読解力のスキルアップ				◎							
基本教育科目	スキル養成	表現力	英語コミュニケーションA	理工学部 兼任講師 柴田 和枝	1前	2	○	中学、高校の文法を復習しながら、英会話の基本を身につける。生活や身の回りに関する基本的な質問やその受け答えをパターンで覚えて、聞いて話せるようになる。				◎							
基本教育科目	スキル養成	表現力	英語コミュニケーションB	理工学部 兼任講師 柴田 和枝	1後	2	○	前期に身につけた基本的な表現をさらに磨き、より複雑な会話表現をチャンク(意味のまとまり)として、パターンで覚え話す、聞く、書くことができるようにする。				◎							
基本教育科目	スキル養成	表現力	英語コミュニケーションC	人間学部 兼任講師 設楽・レベッカ・リン	1前	2	○	英語で自己紹介ができ、自分に関する情報を相手に伝えることができる。英語で質問し、相手に関する基本的な情報を得ることができる。				◎							
基本教育科目	スキル養成	表現力	英語コミュニケーションD	人間学部 兼任講師 設楽・レベッカ・リン	1後	2	○	英語で自己紹介ができ、自分に関する情報を相手に伝えることができる。英語で質問し、相手に関する基本的な情報を得ることができる。				◎							
基本教育科目	スキル養成	表現力	中国語A I	人間学部 准教授 輪田 直子	1前	2	○	・発音記号(ピンイン)を習得し正しい発音を身につけた上で、簡単な日常会話と初歩の文法をが理解できる。・現在の中国について映像資料などを通して理解を深める。				◎							
基本教育科目	スキル養成	表現力	中国語A II	人間学部 准教授 輪田 直子	1後	2	○	・中国語の正しい発音を身につけた上で、簡単な日常会話と初歩の文法を理解できる。・現在の中国について映像資料などを通して理解を深める。				◎							
基本教育科目	スキル養成	表現力	中国語B I	人間学部 准教授 輪田 直子	1前	2	○	・発音記号(ピンイン)を習得し正しい発音を身につけた上で、簡単な日常会話と初歩の文法を理解できる。・現在の中国について映像資料などを通して理解を深める。				◎							
基本教育科目	スキル養成	表現力	中国語B II	人間学部 准教授 輪田 直子	1後	2	○	・中国語の正しい発音を身につけた上で、簡単な日常会話と初歩の文法を理解できる。・現在の中国について映像資料などを通して理解を深める。				◎							
基本教育科目	スキル養成	表現力	フランス語A I	人間学部 兼任講師 大谷 尚文	1前	2	○	フランス語の基本表現と文法を学ぶことを目標とする。例文はフランス語の日常表現から採ってあるので、文法を勉強しながらフランス人の日常生活をかいま見ることができる。学んでいる文法事項に応じたシャンソン等を聞いたり歌ったりすることによって、フランス語を身近なものとする。				◎							

必修選択においては必修◎、必履修(◎)、選択必修○、選択△								◎=DP達成のために重要な科目、○=DP達成のために望ましい科目、△=DP達成のために関連する科目											
科目区分(大)	科目区分(中)	科目区分(小)	科目名	担当(表には入らない)	配当年次	単位数	必修選択	到達目標	知識・理解			技能・表現	思考・判断	関心・意欲	態度・志向性			健康・体力	
									(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	
基本教育科目	スキル養成	表現力	フランス語A II	人間学部 兼任講師 大谷 尚文	1後	2	○	「フランス語A I」の続編として、フランス語の基本表現・文法を学ぶと同時に、例文を通してフランス語の日常表現を学ぶ。学んでいる文法事項に応じたシャンソン等を聞いたり歌ったりすることによって、フランス語が身近なものになる。				◎							
基本教育科目	スキル養成	表現力	フランス語B I	理工学部 兼任講師 マンス ヴィルジニ マリ レア	1前	2	○	フランス語の基本表現を学ぶことを目標とする。音声教材(CD)や先生とのやり取りを繰り返すことによって、フランス語コミュニケーションの二つの柱である聞く/話す能力を養い、最終的にはフランス語を聞いただけで、日本語を介さずにフランス語を理解できるようにする。				◎							
基本教育科目	スキル養成	表現力	フランス語B II	理工学部 兼任講師 マンス ヴィルジニ マリ レア	1後	2	○	フランス語の基本表現を学ぶことを目標とする。音声教材(CD)を繰り返して聞くことによって、フランス語コミュニケーションの二つの柱である聞く/話す能力を養い、最終的にはフランス語を聞いただけで、日本語を介さずにフランス語を理解できるようにする。				◎							
基本教育科目	スキル養成	表現力	ドイツ語A I	経営学部 兼任講師 嶋崎 順子	1前	2	○	ドイツ語の発音を習得する。ドイツ語文法の基礎を理解し、辞書を使ってドイツ語の文章が読めるようになる。簡単なドイツ語を聞き取り、ドイツ語で自分のことを伝えることができるようになる。				◎							
基本教育科目	スキル養成	表現力	ドイツ語A II	経営学部 兼任講師 嶋崎 順子	1後	2	○	ドイツ語の発音を習得する。ドイツ語文法の基礎を理解し、辞書を使ってドイツ語の文章が読めるようになる。簡単なドイツ語を聞き取り、ドイツ語で自分のことを伝えることができるようになる。				◎							
基本教育科目	スキル養成	表現力	ドイツ語B I	経営学部 兼任講師 嶋崎 順子	1前	2	○	ドイツ語の発音ができるようになる。基本的なドイツ語表現を用いて自分の意志や情報を相手に伝えられるようになる。簡単なドイツ語が聞き取れるようになる。				◎							
基本教育科目	スキル養成	表現力	ドイツ語B II	経営学部 兼任講師 嶋崎 順子	1後	2	○	ドイツ語の発音ができるようになる。基本的なドイツ語表現を用いて自分の意志や情報を相手に伝えられるようになる。簡単なドイツ語が聞き取れるようになる。				◎							
基本教育科目	スキル養成	表現力	ハングルA I	人間学部 兼任講師 黄 孝善	1前	2	○	ハングルの読み書きと簡単な日常会話ができるようになる。				◎							
基本教育科目	スキル養成	表現力	ハングルA II	人間学部 兼任講師 黄 孝善	1後	2	○	日常会話でよく使われている表現が習得でき、学習した文章を正確にすらすら読むことができるようになる。				◎							
基本教育科目	スキル養成	表現力	ハングルB I	人間学部 兼任講師 黄 孝善	1前	2	○	韓国語による簡単な単語や表現を確実に身につけるようにする。				◎							
基本教育科目	スキル養成	表現力	ハングルB II	人間学部 兼任講師 黄 孝善	1後	2	○	読む・書く能力を伸ばし、受け答えや初歩的なコミュニケーション力を身につける。				◎							
基本教育科目	社会性養成	キャリアの形成	キャリア設計	人間学部 客員教授 木村 民男	1後	2	(◎)	社会人・職業人として自立していくうえで必要とされる「力」を理解する。その「力」を生かしていくための方法や大学生活の目標設定と将来設計を立てる基本的な知識と技術を修得する。						○	○	◎	○		
基本教育科目	社会性養成	キャリアの形成	キャリア開発	経営学部 教授 湊 信吾	2通	2	△	・自分のキャリアをデザインすることができるようになる。						○	○	◎	○		

必修選択においては必修◎、必履修(◎)、選択必修○、選択△										◎=DP達成のために重要な科目、○=DP達成のために望ましい科目、△=DP達成のために関連する科目									
科目区分(大)	科目区分(中)	科目区分(小)	科目名	担当(表には入らない)	配当年次	単位数	必修選択	到達目標	知識・理解			技能・表現	思考・判断	関心・意欲	態度・志向性			健康・体力	
									(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	
基本教育科目	社会性養成	キャリアの形成	キャリア研究	人間学部 特任教授 有見 正敏	3前	2	△	1. 文献やインターネット等で業界・企業・職種の調査ができる。2. 外部講師の話や質問を通して、企業訪問への意欲をもつ。3. いくつかの企業訪問をして学んだことを、レポートにまとめ発表することができる。4. インターンシップへの意欲につなげることができる。							○	○	◎	○	
基本教育科目	社会性養成	キャリアの形成	国際体験研修	経営学部 教授 湊 信吾	1～4集中	2		海外の人々と英語等の外国語によってコミュニケーションを図ることができ、異文化を幅広く且つ深く理解することができることを目標とする。							○	○	○	◎	
基本教育科目	社会性養成	社会との関わり	フレッシュマンセミナー	人間学部 教授 長谷 川 香子	1通	4	(◎)	大学で必要となる基本的能力、さらに大学および社会での生活で必要となるさまざまな能力を総合的に身につける。				◎							
基本教育科目	社会性養成	社会との関わり	いしのまき学	経営学部 教授 湊 信吾	1前	2	(◎)	石巻市を題材として地方都市が抱える課題について考察します。この学習が一つの契機となって、石巻地域への興味・関心が芽生えたとともに、1年次後期以降に各学部が用意する専門教育科目へと継続・発展していくことが目標です。	△						◎				
基本教育科目	社会性養成	社会との関わり	復興ボランティア学	経営学部 教授 山崎 泰央	1前	2	△	震災被害や被災者の現状をしることで、震災の教訓を他人に伝えることができるようになる。地域の復興に問題意識を持ち、自分から進んで復興に貢献しようという意欲を持つ。ボランティア活動に参加し地域に貢献できるようになる。	△						◎		○	○	
基本教育科目	社会性養成	社会との関わり	ボランティア論	人間学部 兼任講師 佐藤 正幸	1後	2	△	ボランティアについて、さまざまな角度から、各自が気づき考えることが出来る知識を身につけることを目標とする。							◎		○	○	
基本教育科目	社会性養成	社会との関わり	ボランティア演習	人間学部 兼任講師 佐藤 正幸	2後	2	△	(1)社会福祉や特別支援における支援ニーズと支援の方法についての理解を深める。(2)ボランティアの意義について考察するとともに、ボランティア実践を通して意義についての理解を深める。							◎		○	○	
基本教育科目	社会性養成	社会との関わり	総合科目	経営学部 教授 益満 環	1前	2	△	「オープンデータを活用し、地域社会の様々な課題を発見・解決策を提案することができる」ことを目標とする。	◎										
基本教育科目	教養力養成	人間の理解	日本の歴史	人間学部 兼任講師 佐々木 淳	1前	2	○	日本近世史(特に17世紀)を学び、歴史学の基礎を理解する。	◎										
基本教育科目	教養力養成	人間の理解	世界の歴史	経営学部 兼任講師 府中 望	1後	2	○	(1)ヨーロッパの歴史について政治・社会・経済の各方向から多角的に見据えるとともに、その複雑な絡み合いのなかから歴史が展開してきたことを総合的に捉えるための視点を養う。(2)ヨーロッパ各国の固有性が歴史的なプロセスのなかで形成されてきたこと、またそれによって各国、ヨーロッパ全体、ひいては世界の歴史が少なからず左右されてきたことを理解する。	◎										
基本教育科目	教養力養成	人間の理解	異文化理解の人類学	人間学部 兼任講師 千葉 一	1後	2	○	インドの多様性とカースト制に関して深く論じることができる。また、インドの歴史が異民族の侵入と社会統合の模索である事を理解し、その思想的背景を深く理解できる。	◎										
基本教育科目	教養力養成	人間の理解	哲学一知の起源一	人間学部 教授 西方 守	1前	2	○	講義内容を理解することと、理解したことや考えたことを文章で的確に表現できるようになること。	◎										

必修選択においては必修◎、必履修(◎)、選択必修○、選択△								◎=DP達成のために重要な科目、○=DP達成のために望ましい科目、△=DP達成のために関連する科目											
科目区分(大)	科目区分(中)	科目区分(小)	科目名	担当(表には入らない)	配当年次	単位数	必修選択	到達目標	知識・理解			技能・表現	思考・判断	関心・意欲	態度・志向性			健康・体力	
									(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	
基本教育科目	教養力養成	人間の理解	芸術と文化	人間学部 兼任講師 森田 優子	1後	2	○	・地域や年代によってそれぞれ異なる美術作品のスタイル(様式)や表現を明確に捉える。・個々の美術作品のもつ文化的背景を理解する。・個々の美術作品に反映されたそれぞれの時代の芸術観を理解する。	◎										
基本教育科目	教養力養成	人間の理解	日本文学へのいざない	人間学部 准教授 遠藤 郁子	1前	2	○	・小説の基本的な読み方を身につけ、文脈に応じた内容理解ができる。・文学を社会との関わりの中で捉え、その関係性を説明することができる。・多様な日本文学に触れることにより、自らの思考の柔軟性を高め、広い視野を獲得できる。	◎										
基本教育科目	教養力養成	社会の理解	法と社会	経営学部 教授 三森敏正	1前	2	○	我が国の主要な法律の概要と裁判制度を理解する。	◎										
基本教育科目	教養力養成	社会の理解	法と人権	経営学部 教授 三森敏正	1後	2	○	国の三権の統治の理解と国民主権及び基本的人権等を習得し、リーガルマインドの構築を目標とする。	◎										
基本教育科目	教養力養成	社会の理解	経済と社会	経営学部 准教授 関口 駿輔	1前	2	○	経済学的な考え方を理解し、経済・政治・社会・文化など世の中を客観的に理解し、展望することができる。	◎										
基本教育科目	教養力養成	社会の理解	地理学—身近な地域から世界まで—	経営学部 准教授 庄子 真岐	1前	2	○	地理学の最も基本的な考え方を習得するとともに、地表上で生じている諸現象について地理学的な視点から分析し地域的な特性を把握できる力を身に付ける。	◎										
基本教育科目	教養力養成	社会の理解	地域と政策	人間学部 特任教授 横江 信一	1後	2	○	行政担当者による施策の解説を通して地域政策について理解する。	◎										
基本教育科目	教養力養成	自然の理解	生命と地球	人間学部 教授 柳明	1前	2	○	生物の特徴を理解し、それを日常生活に役立てることができるようになる。	◎										
基本教育科目	教養力養成	自然の理解	物質とエネルギー	人間学部 教授 惠原貴志 / 教授 指方研二	1後	2	○	身のまわりの「もの」の変化や性質、エネルギーに関わる事象を科学的に解釈できる様になることを目指す。	◎										
基本教育科目	教養力養成	自然の理解	環境と科学	理工学部 助教 中川 蘭	1後	2	○	トランス・サイエンス的な社会問題を自然科学というフィルタを通して認識し、それについての自分の考えを他者に伝えられるようになる。	◎										
基本教育科目	教養力養成	自然の理解	健康科学と身体運動	人間学部 教授 山内武巳	1前	2	○	健康科学と身体運動では、1:スポーツの知識・技能の習得2:技術レベルの異なるメンバーと協力しながらスポーツを楽しむために必要なエチケット、コミュニケーションスキルの習得3:リーダーシップの発揮、チームとしての問題解決等に関わる個人の資質を身につける	○										◎
基本教育科目	教養力養成	自然の理解	生活習慣と健康管理	人間学部 教授 山崎省一	1後	2	○	テレビ・新聞・インターネット等により健康に関する情報は日常的に氾濫している。多くの情報の中から有益な情報かどうかを判断出来る能力を身につけること、および自分の生活を豊かにするための健康について関心を持つようになること。	○										◎

人間教育学科 専門教育科目カリキュラムマップ

人間教育学科のディプロマポリシー (卒業認定・学位授与の方針)	人間教育学科では、学科所定の単位を修得し、以下の能力を身につけた者に学士の学位を授与します。 1 知識・理解 (1) 保育や教育についての基礎的な知識を身につけている。 2 技能・表現 (2) 保育や教育についての基礎的な技能を身につけ、調査・研究した結果を適切に発表することができる。 3 思考・判断 (3) 保育や教育に関わる事象について調査し、それにもとづき考え、判断することができる。 4 態度・志向性 (4) 保育や教育をとおして社会に貢献しようとする態度・志向性を身につけ、卒業後も常に新しい知識や技術を習得しようとする。
------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

必修選択においては必修◎、必修修(◎)、選択必修○、選択△										◎=DP達成のために重要な科目、○=DP達成のために望ましい科目			
科目区分(大)	科目区分(中)	科目区分(小)	科目名	担当(表には入らない)	配当年次	単位数	必修選択	到達目標	知識・理解	技能・表現	思考・判断	態度・志向性	
									(1)	(2)	(3)	(4)	
専門教育科目	専門基礎科目	学部専門基礎	人間学概論	人間学部教授 笹原 英史 / 人間学部 教	1前	2	◎	哲学、心理学、教育学、社会学、社会福祉学といった学問が人間に関してそれぞれどのような視点からアプローチをおこない、それをとおして人間のもついかなる側面を明らかにしているかを理解できる。	◎				
専門教育科目	専門基礎科目	学部専門基礎	心理学概論	人間学部助教 佐藤 誠子	1前	2	◎	心理学に対するこれまでの自身のイメージやマスメディアにより作られた心理学のイメージを明確にした上で、それらを批判的に捉え、科学としての心理学とはどのようなものか、自分の言葉で説明できる。人間の「心」について、知覚・性格・人格・発達・学習等の側面から具体的に理解する。	◎				
専門教育科目	専門基礎科目	学部専門基礎	社会福祉論	人間学部教授 照井 孫久	1後	2	◎	1.現代社会に内在する生活課題に対応するための社会福祉の意義について理解する。2.さまざまな生活課題へ対応するための制度・政策の概要、及び社会的支援システムについて理解する。3.社会福祉の支援の中で活用される、対人援助技術の基本について理解する。	◎				
専門教育科目	専門基礎科目	学部専門基礎	社会学概論	人間学部教授 佐藤 利明	1前	2	◎	個人と社会の関係について社会的に説明できる。	◎				
専門教育科目	専門基礎科目	学部専門基礎	教育学概論	人間学部教授 西方 守	1前	2	◎	様々な観点から「教育」とは何かということ、「教育学」とはいかなる学問かということ、そして「教育学」の歴史と思想について理解すること、理解したことや考えたことを文章で的確に表現できるようになること。	◎				
専門教育科目	専門基礎科目	学部専門基礎	復興の社会学	人間学部兼任講師 佐藤 翔	2前	2	◎	過去の災害における「復興」と東日本大震災における「復興」の現状を学び、地域の復興を自ら考え、主体的に実行する能力を身につける。	○			◎	
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の基礎	教職概論	人間学部教授 佐藤 幹男	2前	2	△	具体的な到達目標は次の通りである。1教員の仕事について具体的に説明できる。2教員の身分と職務、研修の意義について理解できる。3教員になろうとする意欲を新たに持つ。	◎				
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の基礎	教育原理	人間学部教授 笹原 英史	1後	2	△	(1)教育の理念や思想が、教育法規、教育行政・制度、各学校の教育目的・目標などに、いかに具現化されているかを理解する。(2)教育の哲学(理念や原理)が、子どもの理解や指導、教育内容・方法などいかに密接に関わっているかを考えることができる。(3)現代におけるさまざまな教育的課題とその解決策について、歴史的・思想的背景をふまえて主体的に考えることができる。(4)教育の理念や思想、歴史の学習を自分なりの教育観や子ども観醸成の一助とする。	◎				
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の基礎	教育制度論	人間学部教授 佐藤 幹男	3後	2	△	1 学校教育行政に関わる諸概念を理解する。2 学校制度に関わる諸概念を理解する。3 教育関係の基本的な関係法規について理解する。	◎				
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の基礎	教育心理学	人間学部助教 平川 久美子	1前	2	△	1. 乳幼児期から青年期の各時期における発達の特徴について説明することができる。2. 子どもの発達を踏まえた教育の重要性について説明することができる。3. 「学び」を促す環境や働きかけについて具体的に説明することができる。	◎				
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の基礎	保育原理	人間学部助教 平川 久美子	1後	2	△	1. 保育の意義について説明できる。2. 保育の内容と方法について説明できる。3. 保育者の職務を理解し、保育者としての意欲および態度を身につけている。	◎				
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の基礎	保育者論	人間学部特命教授 松好 伸一	2後	2	△	1. 保育者の職務や役割を理解し、その責任を自覚することができる。2. 自分が目指す保育と保育者像について説明することができる。3. 保育者としての自らの課題に気づき、その克服に向けた具体的な取り組みを考えることができる。	◎				

必修選択においては必修◎、必履修(◎)、選択必修○、選択△										◎=DP達成のために重要な科目、○=DP達成のために望ましい科目			
科目区分(大)	科目区分(中)	科目区分(小)	科目名	担当(表には入らない)	配当年次	単位数	必修選択	到達目標	知識・理解	技能・表現	思考・判断	態度・志向性	
									(1)	(2)	(3)	(4)	
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の基礎	社会的養護	人間学部 兼任講師 斎藤 康隆	2後	2	△	社会的養護が必要となる養護問題の現状や背景、社会的養護の体系や児童福祉施設などの役割、児童福祉施設などにおける養護の実態を理解し、児童観や施設養護観を養うことを目標とします。	◎				
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の基礎	家庭支援論	人間学部 助教 平川 久美子	3前	2	△	1. 保育の場における家庭支援の必要性を説明することができる。2. 現代の子育て家庭を取り巻く状況を踏まえた上で、家庭の状態を理解することができる。3. 保育の場において、子どもだけでなく保護者も含めた家庭全体を支援することができる。	◎				
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の基礎	児童家庭福祉	人間学部 兼任講師 鈴木 守幸	3前	2	△	(1)権利主体者としての子どもに対する理解を深める。(2)今日的な子ども、そして家族、さらには地域社会における諸問題について理解を深める。(3)児童(子ども)家庭福祉における法制度、サービス体系についての理解を深める。(4)児童(子ども)家庭福祉とソーシャルワークについての理解を深める。	◎				
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	保育内容総論	人間学部 特命教授 岩淵 恭子	1後	2	△	(1)遊びを通しての総合的な指導の意義と保育者の役割が説明できる。(2)乳幼児にとっての行事の意味を理解し、園行事のあり方を説明できる。(3)模擬保育を通して、ねらい及び内容に沿って総合的に指導する力を付ける。	◎				
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	保育内容(健康)	人間学部 准教授 永山 貴洋	2前	2	△	1. 保育内容「健康」のねらいと内容について理解すること2. 乳幼児期における心身の発達の特徴と特徴に応じた運動指導について理解すること3. 乳幼児期の「健康」を促進する運動遊び指導について理解すること4. 保育内容「健康」に関する保育者の役割について理解すること	◎	○			
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	保育内容(人間関係)	人間学部 特命教授 松好 伸一	2前	2	△	・人間関係についての認識を深め、保育者の役割について理解する。・子どもの人間関係の発達について学ぶ。・社会環境における子どもの位置を理解する。	◎	○			
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	保育内容(環境)	人間学部 教授 柳明 / 人間学部 教授 指	2前	2	△	・幼児教育における環境とその役割を理解する。・特に、幼児教育における自然環境とその役割を理解する。・幼児の成長・発達に望ましい身近な環境をデザインできる。	◎	○			
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	保育内容(言葉)	人間学部 兼任講師 内海 奈保子	2前	2	△	(1)領域「言葉」の意義、ねらい・内容を理解する。(2)言葉の発達のプロセスを理解する。(3)言葉の発達を促す環境や児童文化財を理解する。(4)保育者の役割と援助の方法を考えることができる。	◎	○			
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	保育内容(音楽表現)	人間学部 教授 近藤 裕子	2前	2	△	私たち人間にとって表現の手段は幅広く多様である。そのことが、保育の場でも大切にされなければならない。この授業では、幼児教育における表現、なかでも音楽的な表現の意味を理解し、具体的な幼児の活動に即した理解を深めることを目的とする。学生には子どもたちの心をつかみ、興味を引き出すことのできる表現力を学んでほしい。		◎			
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	保育内容(造形表現)	人間学部 兼任講師 新妻 悦子	2前	2	△	・幼児に寄り添う姿勢と、そのためのコミュニケーション力を前提とする。言葉や身体を介する場合もあるが、子どもの造形が発する非言語的な「表出」や「表現」に注意深く対応できる感応力を求める。また、子どもと共に、自らも作り出す楽しさを知り、共有する姿を子どもに伝えことを通して、子どもが安心して取り組める場の設定や、臨機応変に対応出来る柔軟な教材開発力をもとめる。まずは幼児のすべてを受容する姿勢と幼児の制作物を大事にする愛情の傾注が必須となる1: 幼児への適切な言葉がけに習熟させる。2: 表情やスキンシップによる意思疎通ができるようにさせる。3: 幼児の作品に対する共感力を高められるようにする。4: 造形制作の素材や用具の扱いができるようにさせる。5: 「表出」と「表現」の違い、または未分化な状態について理解させる。6: 制作課題を課すことで、作る喜び制作のコツ等を修得させる。7: 制作物は子どもと一体の表現物であることを鑑賞の視点から理解させる。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	初等教科教育法(国語)	人間学部 兼任講師 鈴木 洋子	2前	2	△	・「小学校学習指導要領解説 国語編」に示された目標・内容を理解し、基礎的・基本的な知識や技能の習得を図る学習指導の在り方について理解することができる。・主体的に「言葉」を学ぶ言語活動を取り入れた学習指導案を作成し、それに基づいた模擬授業を行うことができる。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	初等教科教育法(社会)	人間学部 教授 新福 悦郎	2後	2	△	小学校社会科教育における教員として必要な資質・能力の基礎を身につける。具体的な到達目標としては、1 社会科の歴史や各学年の指導内容について理解する。2 指導案、指導計画、評価等の基本について理解する。3 最低限の授業実践力を身につける。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	初等教科教育法(算数)	人間学部 特任教授 田中 秀典	2後	2	△	1算数の授業構想について理解できる。2算数の指導案を作成することができる。3指導案に基づいて、模擬授業ができる。4分かる授業について考えることができる。	○	◎			

必修選択においては必修◎、必履修(◎)、選択必修○、選択△								◎=DP達成のために重要な科目、○=DP達成のために望ましい科目				
科目区分(大)	科目区分(中)	科目区分(小)	科目名	担当(表には入らない)	配当年次	単位数	必修選択	到達目標	知識・理解 (1)	技能・表現 (2)	思考・判断 (3)	態度・志向性 (4)
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	初等教科教育法(図画工作)	人間学部 兼任講師 佐々木 貴弘	2後	2	△	1:各年代の子どもの特徴(事態)について理解する。2:各年代の子どもの表現の特徴について理解する。3:表現する面白さ楽しさについて知る。4:表現材料の特徴を理解する。5:テーマの妥当性と設定した場合の留意点について理解する。6:テーマを逸脱する表現とその受容について考える。7:苦手意識を持つ子どもの原因、子どもの造形表現の意義について理解する。8:指導案を作成し、授業を行うことができる。	○	◎		
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	初等教科教育法(生活)	人間学部 兼任講師 米澤 孝 雄	3前	2	△	3年次の協力校における教育実習を前に、生活科の授業実践に生かせる教材開発、指導案の作成、ロールプレイによる授業実践等の演習を通して、小学校生活科の授業に必要な実践的な指導力を身に付ける。	○	◎		
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	初等教科教育法(音楽)	人間学部 教授 近 藤 裕子	3前	2	△	・学習指導要領の理解・学習指導法の理解・学習指導案の作成・模擬授業の実施・音楽基礎理論(楽典)の理解	○	◎		
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	初等教科教育法(理科)	人間学部 教授 柳 明 / 人間学部 教授 指 方 研二	3前	2	△	・小学校教育と小学校理科教育の目標と現状を理解する。 ・テーマに基づき、グループ毎に協力して小学校理科の指導案を作成して模擬授業を行うことができる。 ・授業検討会で目標に即した自己評価ができ、事後の研究協議を通してよりよい理科教育の在り方を考え、実践的指導力を身に付ける。 ・理科の授業の安全確保について学習し、安全確保の要点を身に付け、実践できる。	○	◎		
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	初等教科教育法(家庭)	人間学部 兼任講師 菅原 三 枝子	3前	2	△	(1)指導者としての授業設計、授業実践、評価等学習指導に必要な知識、技術を理解する。(2)学習指導案の基本事項について理解し、その作成ができる。(3)学習指導案を作成し模擬授業を行うなどして、授業技術を習熟することである。	○	◎		
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	初等教科教育法(体育)	人間学部 准教授 永山 貴 洋	3前	2	△	1. 小学校体育の目標と内容について理解すること2. 小学校体育に関する学習指導論について理解すること3. 小学校体育に必要とされる教師の力量形成について理解すること4. 小学校体育の単元計画及び指導案の作成ができること	○	◎		
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	国語	人間学部 准教授 遠藤 郁 子	1前	2	△	・小学校国語科の概要を理解し、教材を自ら適切に分析できる。・国語の、話す力、聞く力、読む力、書く力を総合的に高め、日常生活の中で活用できる。・自ら課題に取り組み、問題を解決することができる。	◎	○		
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	図画工作	人間学部 兼任講師 佐々木 貴弘	1前	2	△	1:各年代の子どもの特徴(事態)について理解する。2:各年代の子どもの表現の特徴について理解する。3:表現する面白さ楽しさについて知る。4:表現材料の特徴を理解する。5:テーマの妥当性と設定した場合の留意点について理解する。6:テーマを逸脱する表現とその受容について考える。7:苦手意識を持つ子どもの原因を理解する。8:子どもの造形表現の意義について理解する。	◎	○		
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	体育	人間学部 教授 山 内 武巳	1後	2	△	体育の到達目標は、半年間を通して自分の手を使った遊び運動、身近にある道具(ボール、縄、棒等)を使用した運動、日本古来の文化として昔から伝わっている遊び運動を題材として、学生自身が体を動かし、体験するとともに、指導方法、ゲームの考案方法等を学ぶ。	◎	○		
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	算数	人間学部 特任教授 有見 正 敏	2前	2	△	1. 算数教育の意義や「目標」について知る。2. 1年生から6年生までの「内容」を知る。3. 現在の算数教育の課題とその解決に向けての方法を知る。	◎	○		
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	生活	人間学部 兼任講師 米澤 孝 雄	2後	2	△	・生活科のねらいについての理解を深め、生活科の実践的指導力の基礎的な力を養う。・学級担任として生活科の授業を担当し、指導を行うに当たって必要な知識・技能を習得する。・学びの連続性を重視する観点から、幼稚園と小学校低学年を関連づけつつ、子どもの学びや育ちについての理解を深める。・アクティブラーニングの手法を用い、具体的な生活科の活動の体験を通して、幼小連携を重視した生活科についての理解を深める。	◎	○		
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	理科	人間学部 教授 指 方 研二 / 人間学部 教授 柳 明	2前	2	△	物質やエネルギー、生物に関する基本事項を理解することで、身のまわりの自然現象を科学的な視点や考え方で捉えられるようになることを目指す。その結果として、単に理科の知識を身につけているというだけではなく、自然現象の因果関係を本質的に理解し、身近な事象を例に挙げて平明に理科を解説できる力を備えた教員としての素養を深めることを目標とする。	◎	○		
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	家庭	人間学部 兼任講師 門脇 久 子	2後	2	△	家庭科と生活を総合的にとらえて家庭科教育を推進するため、学習指導要領の趣旨や教科の本質について理解を図ることを目的とする。具体的目標として1:家庭科教育の意義について理解する。2:系統性と連続性をとらえながら家庭科の目標と内容について理解する。3:題材の構成を考えながら年間指導計画の作成ができることである。	◎	○		

必修選択においては必修◎、必履修(◎)、選択必修○、選択△										◎=DP達成のために重要な科目、○=DP達成のために望ましい科目			
科目区分(大)	科目区分(中)	科目区分(小)	科目名	担当(表には入らない)	配当年次	単位数	必修選択	到達目標	知識・理解	技能・表現	思考・判断	態度・志向性	
									(1)	(2)	(3)	(4)	
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	社会	人間学部教授 新福 悦郎	2後	2	△	戦後社会科の歴史を学び、学習指導要領との関連からその目標と内容構成について理解すると同時に、教育現場で実際に授業を担当するために必要な基礎的な知識・技能の習得を目標とする。そのために、学習指導案の作成や模擬授業を通して、指導方法を具体的に習得していく。	◎	○			
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	音楽	人間学部教授 近藤 裕子	2後	2	△	・小学校音楽科に必要な楽典に関する理解を深める。・小学校音楽科の歌唱共通教材や鑑賞共通教材を具体例として、それらの音楽的な要素を分析する。・合唱・楽器の演奏、ピアノの弾き歌いができるようになる。	◎	○			
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	言語表現	人間学部准教授 遠藤 郁子	3前	2	△	・言語表現に関わる知識と技術を身に付け、自ら活用できる。・絵本、紙芝居、ペープサートなどの児童文化財の特徴を理解し、適切に運用できる。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	小学校の外国語活動	人間学部教授 根本 泉	4前	2	△	・小学生より、言語や外国文化への興味を引き出す、教授法や教材についての知識を身につける。・中学校での学習への橋渡しとして、英語の音声や基本的な表現に慣れ親しませ、基礎学力を涵養する教授上の技術と知識を身につける。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	教育課程論	人間学部教授 佐藤 幹男	2前	2	△	具体的な目標としては、1幼稚園教育要領と小学校学習指導要領の目標・内容を理解する。2幼稚園と小学校の特性を踏まえた教育課程の編成のあり方を理解する。3幼児・児童の発達段階に応じた指導計画の立案についての基礎的な知識・技能を習得する。4実際の指導を想定し、学校教育目標を達成するために効果的な教育課程の編成や課題について実践的に理解する。	◎				
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	教育方法論	人間学部教授 新福 悦郎	2後	2	△	教育現場で実際に授業を担当するのに必要な基礎的な知識・技能の習得を目標として、「教師としての姿勢」と「教育技術の習得」を実践的に学ばせる。具体的な目標としては、1/教育方法学とは何か、その基本的な概念を理解し、指導方法や技術の基礎基本を身に付け、実際の授業展開が出来るようにする。2/最新の研究成果を通してカリキュラムや授業や学びについて認識を深め、指導者としての発問、板書、タイミングなどについても討論し、ICT活用などの具体的な指導技術についても身に付けさせる。3/授業は教師の生命でもあるので、基礎基本を徹底すると同時に実践と討論によって、教育方法と技術の基本を身に付け、教師としての資質・能力を磨いていく。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	幼児理解の理論と方法	人間学部助教 平川 久美子	3後	2	△	1. 幼児期の発達の特徴について説明することができる。2. 幼児理解の方法を用いて、様々な観点から子どもを理解することができる。3. 配慮の必要な子どもを適切に理解することができる。	◎				
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	教育相談の理論と方法	人間学部教授 佐藤 正恵	3前	2	△	・児童期の発達とこの時期に生じやすい心理的問題について説明できる。・教育相談の意義と方法について理解する。・カウンセリングの理論と教育相談に利用しうる技法について説明できる。・スクールカウンセラーや他機関との連携の意義や方法について理解する。	◎				
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	道徳教育の指導法	人間学部特任教授 田中 秀典	3前	2	△	(1)道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。(2)学校の教育活動全体を通じて道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	特別活動の指導法	人間学部特任教授 田中 秀典	2後	2	△	学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等の往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。1 特別活動の意義、目標及び内容を理解する。2 特別活動の指導の在り方を理解する。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	生徒・進路指導の理論と方法	人間学部特任教授 田中 秀典	3前	2	△	生徒指導においては、組織的に進めるための必要な知識・技能や素養を身に付ける。(1)生徒指導の意義や原理を理解する。(2)児童を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解する。(3)児童の抱える主な生徒指導上の課題の様態と教職員・専門家・関係機関との連携した対応の在り方を理解している。	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	乳児保育	人間学部特命教授 松好 伸一	2後	2	△	1. 乳児保育の意義について説明することができる。2. 3歳未満児の発達に応じた保育の進め方を具体的に考えることができる。3. 乳児保育に携わる保育者としての自覚をもっている。	◎				
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	障がい児保育	人間学部助教 平川 久美子	2前	2	△	1. 障がい児保育の意義について説明できる。2. 個々の子どもの支援ニーズの把握と支援について具体的に考えることができる。3. 障がい児保育に携わる保育者としての自覚をもつ。	◎				

必修選択においては必修◎、必修修(◎)、選択必修○、選択△

科目区分(大)	科目区分(中)	科目区分(小)	科目名	担当(表には入らない)	配当年次	単位数	必修選択	到達目標	◎=DP達成のために重要な科目、○=DP達成のために望ましい科目			
									知識・理解	技能・表現	思考・判断	態度・志向性
									(1)	(2)	(3)	(4)
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	相談援助	人間学部教授 照井 孫久	2後	2	△	ソーシャルワークの基礎的な理論を理解するとともに、保育におけるソーシャルワークの事例分析を通して、幼児の発達支援における様々な福祉課題への対処の具体的な方法についての理解を深める。	◎			
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	子どもの保健 I	人間学部特命教授 岩淵 恭子	2前	2	△	1.子どもの発育状況と発達状態を理解しながら子どもの健康と保健について理解を得る2.子どもの疾病・疾患についての基礎知識を習得し、適切な対応について学ぶ。3.子どもの生活環境と子どもの心の健康についての関連性を学ぶ。4.子どもの保育環境と安全・衛生管理に必要な基礎知識を習得する。	◎			
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	子どもの保健 II	人間学部教授 佐藤 正恵 / 人間学部 兼 人間学部 兼任講師 山 真由美	2後	2	△	1.子どもの保育環境と安全・衛生管理に必要な基礎知識・技術を学ぶ。2.子どもの食生活や栄養について知識を得る。3.子どもの精神的健康や不健康について説明できる。4.育児支援の必要性と地域母子保健活動について理解を得る。	◎			
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	子どもの保健演習	人間学部 兼任講師 平山 真由美 / 人間学部 理工学部 教授 坂田 隆	2後	1	△	1.子どもの発育・発達に必要な養護の技術が実施できるようになる。2.健康状態の観察、症状・病気の対処と予防、応急処置が実施できるようになる。3.事故防止および安全な保育環境に関する基本的な知識を理解し、方法を述べられる。	○	◎		
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	子どもの食と栄養	人間学部 兼 人間学部 兼任講師 齋藤 康隆	1後	2	△	栄養・調理・食育等の理論と法的な裏付けを理解し、調乳・調理を含めた栄養・食育指導等の実践的な能力を身につける。	○	◎		
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	社会的養護内容	人間学部 兼任講師 齋藤 康隆	3前	1	△	社会的養護内容とは何か、「子どもの最善の利益」を考えた際、具体的に保育者として、どう子どもの養護にかかわっていけば良いのかの見立てと技術、知識を獲得することを目標とします。	○	◎		
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	保育心理学 I	人間学部教授 佐藤 正恵	2前	2	△	1.乳幼児期の子どもの各発達段階の特徴を説明できる。2.生涯発達における乳幼児期の位置づけを理解し、初期経験の重要性を学ぶ。3.子どもが人との相互作用を通して発達していくことを具体的に学び、保育実践との関連を理解する。	◎			
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	保育心理学 II	人間学部教授 佐藤 正恵	3前	1	△	1.子どもの心身の発達と保育実践について理解を深める。2.生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解する。3.保育における発達援助について学ぶ。			◎	
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	心理学基礎実験	人間学部 准教授 永山 貴洋 / 人間学部 准教授 永山 貴洋	2前	2	△	基礎的な実験を通して心理学における実験的研究の基礎的体系的知識を身につけることを目標とする。また、実験に対象者として参加し、自らデータを分析することで、現象を客観的に分析する能力の習得を目指す。		○	◎	
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	心理学基礎実習	人間学部 准教授 永山 貴洋 / 人間学部 准教授 永山 貴洋	2後	2	△	心理学における調査方法に関する基礎的な知識を習得する。心理学的調査方法を通して現象を分析することを通して現象を実証的に解明する能力を身につけることを目指す。		○	◎	
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	心理アセスメント基礎実習	人間学部教授 佐藤 正恵	3後	2	△	1.心理アセスメントの意義や実施にあたっての倫理について理解する。2.代表的な心理アセスメントの方法を習得するとともに、それらの効用と限界も説明できる。3.目的に応じていかなる検査を組み合わせるか理解する。4.心理アセスメントによって得られた様々な情報から対象者を統合的に理解する方法を学ぶ。		◎	○	
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	心理統計法	人間学部 兼任講師 川原 正広	2前	2	△	統計法を結果処理の手段としてではなく、研究計画の段階から適正な方法を考慮、選択できる能力や、結果を予測する能力を育成する。		○	◎	
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	心理学研究法	人間学部 兼任講師 中尾 彩子	3前	2	△	心理学研究法の歴史の変遷や各種研究法の特徴等について理解する。また、研究目的に照らし研究方法の適否を判断したり、自らの研究目的に合った実証的研究を計画、実施、分析するための基本的な知識を得る。		○	◎	
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	学習心理学	人間学部 助教 佐藤 誠子	2後	2	△	・日常生活場面でみられる人間の学習について、行動論的アプローチと認知論的アプローチからとらえ、それらについて自分の言葉でまとめることができる。・心理学的な理論がどのように実際の日常生活場と関連しているか、また、どのように教育実践に活かされうるかを考えることができる。	◎			
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	認知心理学	人間学部 兼任講師 渡邊 兼行	3後	2	△	記憶、言語情報の処理、推理、問題解決など、人間の認知機能に関する理論を理解し、自分の言葉でまとめることができる。また、これらの理論について日常世界と関連づけて考えることができる。	◎			

必修選択においては必修◎、必履修(◎)、選択必修○、選択△									◎=DP達成のために重要な科目、○=DP達成のために望ましい科目			
科目区分(大)	科目区分(中)	科目区分(小)	科目名	担当(表には入らない)	配当年次	単位数	必修選択	到達目標	知識・理解 (1)	技能・表現 (2)	思考・判断 (3)	態度・志向性 (4)
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	発達心理学	人間学部 助教 平川 久美子	1後	2	△	1. 子どもの発達を踏まえた保育・教育の重要性について説明することができる。2. 「発達」という視点から子どもを理解することができる。3. 特別な配慮を必要とする子どもの支援の進め方について説明することができる。	◎			
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	社会心理学	人間学部 兼任講師 中尾 彩子	3後	2	△	個人が社会に与える影響と、社会が個人を動かす心的過程を、個人と社会の双方向から把握、理解する素養を形成するとともに、生起し得る諸現象の要因と要因間の関係性に着目して法則を見出し、個人と社会の変化を心的側面から予測可能にできる能力を育成する。	◎			
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	家族心理学	人間学部 教授 佐藤 正恵	3後	2	△	1. 家族システム論や家族ライフサイクルについて知識を得る。2. 家族の発達過程で生じる心理学的諸問題について理解する。3. 家族療法を中心とした臨床心理学的援助の在り方について学ぶ。4. 家族を支えるコミュニティ支援の視点について学ぶ。	◎			
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	健康心理学	人間学部 准教授 永山 貴洋	3後	2	△	・健康心理学の基礎的な知識を習得すること・健康行動を促進する心理学の諸理論について理解を深めること・健康に関する今日の課題を理解し、実践的な介入方法について理解を深めること	◎			
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	障がい児・者心理学	人間学部 教授 佐藤 正恵	2後	2	△	1. 障がい別の心理的特性について説明できる。2. 障がいの種別や程度に応じて求められる指導や教育のあり方について学ぶ。3. 障がい児・者をもつ家族への基本的な支援方法について学ぶ。	◎			
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	臨床心理学概論	人間学部 教授 佐藤 正恵	1後	2	△	・臨床心理学が介入する主要な心の問題(異常心理や精神病理)を説明できる。・臨床心理学的なアセスメント法を説明できる。・代表的な心理療法の理論と技法を説明できる。・臨床心理学的地域援助の内容や意義を理解している。	◎			
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	人格心理学	人間学部 兼任講師 中尾 彩子	2前	2	△	人格を構成する心理的諸要因間の関連を理解し、人格形成の法則性を導きだす能力の涵養を通じて、個人と集団の人間性の理解の深化を図る。	◎			
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	行動科学	人間学部 兼任講師 中尾 彩子	2前	2	△	1. 行動科学における心理学の位置づけについて理解する。2. 人間行動の起因である動機づけ、行動の形成としての学習、個人行動や集団行動に及ぼす心理学的諸要因などについて基本的知識を得る。3. 身の回りの人間行動について心理学的な視点から解釈できるようになる。	◎			
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の理解	心理調査概論		3後	2	△	1. 個人的、社会的問題の解決に心理学研究法を用いることの意義を説明できる。2. 心理調査に用いる代表的な心理学研究法の概要を説明できる。3. 問題解決に向けて現象を分析するための心理学研究法を選択できる。		○	◎	
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の実践	幼児教育実習事前事後指導	人間学部 准教授 永山 貴洋 / 人間学部	3前	1	△	1. 実習生に必要な心構えや基本的知識・技能を習得して実習に臨むことができる。2. 実習における自己の課題を明確にもつことができる。3. 実習での経験を振り返り、今後の課題や目標を明確にもつことができる。	○	○	○	◎
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の実践	幼児教育実習 I	人間学部 教授 山崎 省一	3前	2	△	(1) 幼稚園での園生活の流れを理解する。(2) 幼児との関わりを通して、幼児の発達や行動について理解を深める。(3) 幼稚園教諭の指導法、役割、保護者への支援等を学ぶ。(4) 幼稚園の施設や設備等について理解する。	○	○	◎	○
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の実践	幼児教育実習 II	人間学部 教授 山崎 省一	3前	2	△	(1) 幼稚園での園生活の流れを理解する。(2) 幼児との関わりを通して、幼児の発達や行動について理解を深める。(3) 幼稚園教諭の指導法、役割、保護者への支援等を学ぶ。(4) 幼稚園の施設や設備等について理解する。	○	○	◎	○
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の実践	初等教育実習事前事後指導	人間学部 特任教授 横江 信一	3前	1	△	教育実習の基本的な事項について理解させるとともに教育実習への心構えを確立し、教育実習を意義あるものにする。また、教育実習終了後は、振り返りによって初等教育への理解を深め、教職への意欲を喚起する。	○	○	○	◎
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の実践	初等教育実習 I	人間学部 特任教授 有見 正敏	3前	2	△	教育実践を体験し、現場の教員の指導を受けることをとおして、大学でのこれまでの学習を反省するとともに、今後の学習への展望を描き、自己の教職への適性や意欲を再確認する。	○	○	◎	○
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の実践	初等教育実習 II	人間学部 特任教授 有見 正敏	3前	2	△	「初等教育実習I」での経験を生かし、自己の教職への適性や意欲を再確認する。	○	○	◎	○

必修選択においては必修◎、必履修(◎)、選択必修○、選択△										◎=DP達成のために重要な科目、○=DP達成のために望ましい科目			
科目区分(大)	科目区分(中)	科目区分(小)	科目名	担当(表には入らない)	配当年次	単位数	必修選択	到達目標	知識・理解	技能・表現	思考・判断	態度・志向性	
									(1)	(2)	(3)	(4)	
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の実践	保育実習指導 I	人間学部教授 佐藤 正恵	3前	2	△	1.実習の意義や目的、内容、方法、実習先について理解する。2.実習に臨む心構えとして、特に守秘義務や人権尊重の重要性を説明できる。3.実習に必要な諸技能を身につける。4.実習後、実習の経験を振り返り、今後の課題を具体的に明確にする。	○	○	○	◎	
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の実践	保育実習 I (保育所)	人間学部教授 新福 悦郎	3前	2	△	1. 保育の内容、機能などを実践現場での体験を通して理解する。2. 既習の教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養う。3. 保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について学ぶ。	○	○	◎	○	
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の実践	保育実習 I (施設)	人間学部教授 照井 孫久	3後	2	△	(1)施設の利用者特性について理解する。(2)利用者特性にもとづいた支援方法を理解する。(3)利用者とのコミュニケーションのなかで対人援助の基本原則について理解を深める。	○	○	◎	○	
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の実践	保育実習指導 II	人間学部教授 指方 研二	4前	1	△	1. 保育の内容、機能などを実践現場での体験を通して理解する。2. 既習の教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養う。3. 保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について学ぶ。	○	○	○	◎	
専門教育科目	専門展開科目	保育と教育の実践	保育実習 II (保育所)	人間学部助教 平川 久美子	4前	2	△	1. 保育の内容、機能などを実践現場での体験を通して理解する。2. 既習の教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を養う。3. 保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体化について学ぶ。	○	○	◎	○	
専門教育科目	専門展開科目	専門関連科目	ピアノ実技とソルフェージュ I	人間学部教授 近藤 裕子	1前	2	(◎)	歌や伴奏の実技をより向上させて、それを裏付ける音楽理論にも習熟する。		◎			
専門教育科目	専門展開科目	専門関連科目	ピアノ実技とソルフェージュ II	人間学部教授 近藤 裕子	1後	2	(◎)	「ピアノ実技とソルフェージュ」で学んだ基礎を生かし、ピアノ演奏技術の向上、読譜力の向上、音楽基礎理論の習得を目指す。		◎			
専門教育科目	専門展開科目	専門関連科目	子どもの歌と伴奏法 I	人間学部教授 近藤 裕子	2前	2	△	歌や伴奏の実技をより向上させて、それを裏付ける音楽理論にも習熟する。		◎			
専門教育科目	専門展開科目	専門関連科目	子どもの歌と伴奏法 II	人間学部教授 近藤 裕子	2後	2	△	現場を想定して自ら考え、演奏ができるようにする。		◎			
専門教育科目	専門展開科目	専門関連科目	アンサンブル I	人間学部教授 近藤 裕子	1前	2		音楽を創り上げるプロセスを仲間と共有しながら、楽器をマスターして演奏できるようにする。		◎			
専門教育科目	専門展開科目	専門関連科目	アンサンブル II	人間学部教授 近藤 裕子	1後	2		アンサンブルIIでは、音楽を創り上げるプロセスを仲間と共有しながら、様々な楽器や歌をマスターして演奏できるようにする。		◎			
専門教育科目	専門展開科目	専門関連科目	特殊講義 I	人間学部教授 根本 泉	2前	2	△	・社会の中で英語を活かす実践的な活動に触れ、英語を学ぶことの意義を深く理解することができる。・言語について、文学、文化、芸術等との関連において幅広く理解することができる。					
専門教育科目	専門展開科目	専門関連科目	特殊講義 II	人間学部教授 長谷川 香子	2後	2	△	受講生各自が以下の中から、目標を選択・設定し、確実な目標達成を目指す。1. TOEIC高得点取得(500点以上)2. 英語検定試験合格(2級/準1級)					
専門教育科目	専門展開科目	専門関連科目	特殊講義 III		3前	2	△						
専門教育科目	専門展開科目	専門関連科目	特殊講義 IV		3後	2	△						
専門教育科目	専門展開科目	専門関連科目	生涯学習論	人間学部助教 杉浦 ちなみ	2後	2	△	生涯学習及び社会教育の本質について理解する。	◎				
専門教育科目	専門展開科目	専門関連科目	社会教育論	人間学部兼任講師 高橋 弘	2前	2	△	社会教育における学習活動およびそれを支援する行政(職員)の役割について理解する。	◎				
専門教育科目	専門展開科目	専門関連科目	幼児体育	人間学部准教授 永山 貴洋	2前	2	△	・幼児の体力と運動能力の今日的課題について理解を深めること・幼児期の運動遊び指導に関する基礎的な知識と実践的な技能を習得すること	○	◎			

必修選択においては必修◎、必履修(◎)、選択必修○、選択△										◎=DP達成のために重要な科目、○=DP達成のために望ましい科目			
科目区分(大)	科目区分(中)	科目区分(小)	科目名	担当(表には入らない)	配当年次	単位数	必修選択	到達目標	知識・理解	技能・表現	思考・判断	態度・志向性	
									(1)	(2)	(3)	(4)	
専門教育科目	専門展開科目	専門関連科目	自然環境論	人間学部教授 柳明 / 理工学部	2後	2	△	身近な自然環境とそこに生息する生物について理解する。	◎				
専門教育科目	専門展開科目	専門関連科目	教育社会学	人間学部助教 杉浦 ちなみ	3前	2	△	・社会の状況を理解し、その変化が教育にもたらす影響とそこから生じる課題、また、それに対応するための教育政策の動向を理解する。・現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付けるとともに、そこに内在する課題を理解する。・学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解する。	◎				
専門教育科目	専門展開科目	専門関連科目	地域・学校連携論	人間学部教授 笹原 英史	3前	2	△	学校と地域、各種の学校間の望ましい連携について考え、理解することができる	◎				
専門教育科目	専門展開科目	専門関連科目	子ども文化論	人間学部兼任講師 米澤 孝雄	3後	2	△	(1)子ども文化の重要性を理解する。(2)保育・教育実践で生かせる知識と技術を身に付ける。	◎	○			
専門教育科目	専門展開科目	専門関連科目	子どもと野外活動	人間学部准教授 永山 貴洋	1前	1	△	・幼児期および児童期における野外活動の意義と目的について理解すること・幼児および児童を対象とした野外活動の指導に関する理論と方法を理解すること・幼児期および児童期における野外活動のプログラムを作成できること	○	◎			
専門教育科目	専門展開科目	専門関連科目	子どもとマルチメディア	経営学部教授 湊 信吾	4前	2	△	RaspberryPiを使用して以下のことを身につけることができるようになる。・マルチメディアの操作・Pythonやスクラッチを使用したプログラミングの基本・RaspberryPiを使用したシステム構成やコンピュータネットワークについての理解・Linuxについての基本的な知識	◎	○			
専門教育科目	専門展開科目	専門関連科目	地域防災論	人間学部兼任講師 佐藤 翔	3前	2	△	地震・津波に強い地域づくりの対策を理解し、具体的な防災対策案を提案し実践することができる。	○	○	◎	○	
専門教育科目	専門展開科目	専門関連科目	環境物理学	人間学部准教授 阿部 正典	4後	2	△	地球環境を成立させている自然条件を理解し、人間社会との関わりを数値的なデータを用いて理解する。自然科学の方法を使って、環境に対する様々な評価や定量を行う。現代文明のもつ様々な環境問題を具体例に、その手法の有用性を知る。	◎	○			
専門教育科目	専門研究科目	保育・教育総合演習	保育・教育研究	人間学部特任教授 有見 正敏	1前	2	◎	保育・教職ならびにその他の関連職業の現状と課題について知り、自らテーマ設定の基調査研究をし、その成果を発表する。		◎		○	
専門教育科目	専門研究科目	保育・教育総合演習	専門教養演習	人間学部特任教授 有見 正敏	2通	2	◎	1. 保育・教育に関連する教養を身につける。2. 保育・教育に関連する今日的課題を知る。3. 保育・教育に関連する今日的課題を通して能動的な学習態度を身につける。	◎	○		○	
専門教育科目	専門研究科目	保育・教育総合演習	人間教育研究基礎		3後	2	◎	1. 保育・教育に関連する課題を見いだすことができる。2. 保育・教育に関連する課題を解決するための知識や技能を習得する。	○	○	◎	○	
専門教育科目	専門研究科目	保育・教育総合演習	人間教育研究 I		4前	2	◎	1. 保育・教育に関連する課題を設定することができる。2. 設定した課題について調査し、考察した結果を説明することができる。	◎	◎	◎	◎	
専門教育科目	専門研究科目	保育・教育総合演習	人間教育研究 II		4後	2	◎	1. 保育・教育に関連する課題を設定することができる。2. 設定した課題について調査し、考察した結果を説明することができる。3. 調査した結果をもとに社会的問題について考察できる。	◎	◎	◎	◎	
専門教育科目	専門研究科目	保育・教育総合演習	保育・教職実践演習(幼・小)	人間学部特任教授 横江 信一	4後	2	◎	学生各自がこれまでの教職に関する学習や経験を振り返り、発表やグループ討論、全体討論や教員(教職課程専任教員、学校勤務経験のある非常勤講師、必要に応じて「教科に関する科目」担当教員)よりのコメント・アドバイスをとおして自己の問題点と今後の学習課題をより具体的かつ明確なものとする。教職への将来的展望を開かせる。具体的な到達目標は、1これまでの学習の問題点を明確にする、2今後の学習課題を明確にする、3今後の教職への展望を明確にすることである。	○	○	○	◎	